

施策マネジメントシート ～令和4年度の振り返りから令和5年度の取組へ～

①計画⇒実施 (Plan⇒Do)

(5月中に記入)

長期振興計画 の位置づけ	まちづくり分野	しごと分野	担当課	農林水産課・農業委員会			
	政策分野	地域産業	課長名	岩下栄一・中野賢二			
	施策	8 農業の振興		重点施策の該当	R4	○	R5
施策の目的	対象	農業者	意図	所得を増やす 担い手(新規就農者)を増やす			

施策の目標指標

目標指標(単位)	指標の推移(下段の()書きは見込み値)					
	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度目標	令和6年度目標	令和7年度目標
1戸当たりの農業粗生産額(千円) (過去5か年の平均値)	5,343	5,924	6,175 (6,795)	(7,209)	(7,666)	(7,925)
新規就農者数(人)	1	2	1 (3)	(3)	(3)	(3)
遊休農地の割合(%)	2.11	2.48	3.83 (1.79)	(1.50)	(1.20)	(0.90)
担い手等への農地集積率(%)	30.66	33.04	34.94 (38.00)	(42.00)	(46.00)	(50.00)

市民アンケート調査の結果(施策に関する重要度と満足度)

令和3年度実績		令和4年度実績		令和5年度実績		令和6年度実績		令和7年度実績	
重要度(%)	満足度(%)								
83.4	23.4	86.6	23.2						
重要度DI	満足度DI								
81.8	-6.6	84.3	-10.3						

施策推進のための取組の成果を測る指標

基本事業名	関連戦略No.	成果指標(単位)	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値)					
			2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度目標	6年度目標	7年度目標
農業農村整備	2-3	ほ場整備率(%)	47.4	47.4	47.4 (49.0)	(50.0)	(51.0)	(52.0)
農業農村整備		農道整備率(%)	50.5	50.8	50.9 (52.0)	(53.0)	(54.0)	(55.0)
農業農村整備		多面的機能支払交付金組織数(組織)	-	34	34 (35)	(36)	(37)	(38)
農業農村整備		鳥獣侵入防止柵設置数延べ面積(ha)	138	156	160 (175)	(195)	(215)	(235)
産地づくり(流通加工販売体制の整備)	1-1・2、2-3、3-6、4-8、14-37	園芸粗生産額(過去5ヶ年の平均値)	1,910,366	1,733,272	1,624,490 (1,761,100)	(1,761,100)	(1,761,100)	(1,900,000)
産地づくり(流通加工販売体制の整備)		畜産粗生産額(過去5か年の平均)	2,547,709	2,430,911	2,332,425 (2,547,800)	(2,547,800)	(2,547,800)	(2,700,000)
多様な担い手育成(農業)	2-4 3-5	農業粗生産額(千円) (過去5か年の平均値)	6,182,719	5,894,761	5,754,832 (5,944,401)	(5,923,323)	(5,949,049)	(6,150,000)
多様な担い手育成(農業)		担い手への農地集積率(%)	30.7	33	34.9 (38.0)	(42.0)	(46.0)	(50.0)
農地利用の最適化	3-5 5-9	遊休農地の割合(%)	2.11	2.48	3.83 (1.79)	(1.5)	(1.2)	(0.9)
農地利用の最適化		担い手への農地集積率(%)	30.7	33	34.9 (38.0)	(42.0)	(46.0)	(50.0)

施策マネジメントシート ～令和4年度の振り返りから令和5年度の取組へ～

②-1 振り返り(Check)

施策を取り巻く環境変化・市民ニーズ等への対応	
<p>[農林水産課] 基本事業No.26・27・28</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大等の国内情勢に加え、ロシアのウクライナ侵攻、円安の為替相場など国際情勢の変化により、飼料・肥料・燃油等の農業用資材が高騰し、農家の生産基盤の維持・経営継続に大きな影響が生じる状況となった。このため、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、畜産農家、耕種農家や茶農家に対してそれぞれ生産基盤の維持・経営継続のための支援を行った。 ・サツマイモ基腐病については、梅雨明けから9月上旬まで降水量が少なかったこと、また各農家の防除対策の徹底等により、昨年度に比べ病害の発生が少ない状況で推移したが、9月の台風14号以降は、被害が拡大した。 ・安納いもについては、「種子島安納いも」が令和4年3月に国が知的財産として名称を保護する地理的表示(GI)保護制度に登録されたことから、安納いもブランド推進本部を中心に他産地との差別化や新たなブランド力向上のための基準づくりや研修会等に取り組んだ。 ・国際情勢等の影響により、輸入飼料の高騰が続き畜産経営が厳しくなる中、域内の自給飼料の確保が重要となっている。このため、種子島牧場を廃止し、新たに令和5年4月から西之表市公共採草地(西之表市自給飼料供給センター)として、自給飼料の確保と安定供給を強化し、畜産振興を図ろうとするために条例の見直しを行った。 ・農道の維持補修に要する業務(ハエ敷き、生コン舗装)は、建設課土木係で行っていたが、組織機構見直しにより、令和4年度から農林水産課農業土木係で行うこととした。
<p>[農業委員会事務局] 基本事業No.29</p>	<p>高齢化や人口減少によって、農業者の減少や耕作放棄地が拡大し、地域の農業が適切に利用されなくなることが懸念される中、農地が利用されやすくなるよう、農地の集約化等に向けた取組を加速化させることが喫緊の課題である。農業委員会は、全国的に「地域の農地を活かし、持続可能な農業・農村を創る」運動に取り組んでおり、「地域の農地利用再編の検討と対応方針の策定」、「継続的に保全すべき農地の維持・管理の取組」、「農地利用最適化活動の推進」を目標としている。</p>
施策の成果(貢献度の高い事業等)と現状・課題	
成果	現状・課題
<p>[農林水産課] 基本事業No.26・27・28</p>	<p>【農業農村整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続事業として、畑地帯総合整備事業の西京南地区、横山地区、県営中山間地域総合整備の西之表創生地区、農業水利等長寿命化・防災減災事業(西京ダム子局、横山、西俣1号井堰)、県営農地整備事業(通作・保全)住吉地区(基幹農道の路面改良)に取り組む農業生産性の向上に繋げた。 また、新規事業として安納下郷と現和武部を結ぶ基幹農道を整備する県営農地整備事業(通作・基幹)現和地区(R4-R12、L=6.2Km)に着手した。 ・地域の共同活動により、農地や農業用施設など地域資源の適切な保全管理を行う組織への支援を推進した。 ・6月の梅雨前線豪雨により農地・農業用施設(農道2件[西俣・武部])に災害が発生したため県補助金を活用し、復旧工事を行った。 ・有害鳥獣被害については、金網柵の設置や市猟友会との連携による計画的な捕獲活動により、農業被害が低減傾向にある。 <p>【産地づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモ基腐病について、防除支援員2名を配置し巡回を通じたきめ細かな指導等を行うとともに、国や市単独の助成事業により農業や資材等、対策に要する費用の負担軽減を図り、生産量及び生産意欲の維持に努めた。 ・農産物の輸送費支援を行い、農家が島外へ出荷する経費の低減を図った。 ・茶・さとうきび・青果用さつまいもにおける有機農業への支援を行うことで、生産農家の拡大に繋げた。 ・さつまいも収穫後の後作として生産されるブロックリーについて、収穫用台車の購入助成を行い、農作業の省力化による面積拡大、収量増加を図った。 ・安納いも優良種苗を増殖する農家に対し、育苗施設等の整備を支援することで、苗の確保及び適期植付けに繋がった。 ・市内の農産物の安心・安全に対する取組(K-GAP)を推進することで、取得数の増加に繋がった。また、大消費地への販売促進ができない中、県内において新しい生活様式のイベントに参加し、販売促進活動を行った。 ・低温等天候の影響を受ける中、農家の要望数に応じた安納いもの優良種苗を配付をすることができた。 ・さとうきびにおいて機械収穫を委託する上で負担となっている中出し料金を一部助成することで、経費の低減と経営の安定化を図った。また作業料金を夏・秋植えに対する一部助成をすることで、反収向上を図り、経営の安定化へ繋がった。機械導入により受委託体制の強化を図り、生産量及び生産額の増加に努めた。 ・新しいあかおぎ牛制度を活用し、市場性の高い血統の子牛貸付等優良母牛の普及向上に繋がった。 ・畜産においては、機械導入を実施し、牧草管理作業の効率化が図られた。 <p>【多様な担い手育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実質化された「人・農地プラン」の実現については、基盤法の改正による地域計画の策定に伴い、計画的な実施を図るため、関係機関との協議や工程表の作成を行った。 ・受託作業(援農隊を含む。)を行う公社を支援することで、労働力不足の解消に繋がった。 ・担い手育成に向け活動している協議会の運営支援を行った。 ・認定新規就農者に農業次世代人材投資資金を交付し、定着させることで担い手の育成に繋がった。 ・農業委員会と連携し、農地中間管理機構を通じて担い手農家への農地の集積化・集約化、遊休農地の解消が図られた。 <p>【農業農村整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相続未登記・所有者不在等があり、県営事業の進捗に影響が出ている。 ・県単事業や補助事業の採択要件に合致しない施設整備要望が多く、単独費を充当していく必要がある。 ・老朽化した基幹的な農業水利施設の長寿命化対策が喫緊の課題であり、円滑な更新が必要となっている。 ・多面的組織の構成員が高齢化しており、事務処理の簡素化を求める声が多い。手続上、4月～6月の活動の繁忙期に交付金が支給できないため、組織活動に支障を来している。 <p>【産地づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、有機農業を含めた環境にやさしい取組をする農業者が増えることが予想される。一方で、有機農業に特化した専門の指導者が不足しており、体制づくりが課題である。今後付加価値を付けた販路の拡大と事業の活用等について推進する必要がある。 ・ブロックリーの面積は今後も増えていくと予想され、1人当たりの面積も増加することから、作業の省力化のため収穫用台車の購入助成に対する制度継続への要望がある。 ・安納いもの優良種苗供給体制の確立を進めていくために、今後も増殖育苗ハウスの農家個人での導入を進めていかなければならない。 ・サツマイモ基腐病の影響もあり、優良種苗の安定した供給を行うための資材や人件費の負担増が見込まれることから、公社への委託料の見直しを行う必要がある。 ・サツマイモ基腐病等の影響によりさとうきびへの転作が増加し、ハーベスターによる収穫や精脱葉施設に大きな負担が生じている。 ・さとうきびの原苗ほ設置者(設置面積)の確保に苦慮している。 ・牛ボツリヌス症の発症から年月が過ぎると接種頭数が減少する傾向がある。 ・増頭・増羽により、牛舎及び鶏舎に対する助成金額の拡大が求められている。 ・飼料用米の需要に応じた供給が課題である。 <p>【多様な担い手】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域計画の策定については、「人・農地プラン」の地区の見直しや目標地図作成を行うに当たり、関係機関一体となって取り組む必要がある。 ・目標地図の作成により農地の集積・集約化の状況を可視化することで、地域で農地を守り、遊休農地や耕作放棄地を増やさない意識づくりや取組を進める。 ・営農大学の生徒確保と実践的な指導体制づくりが必要であるため、今後の在り方について引き続き検討を行う。 ・認定農業者の高齢化により、若い担い手の確保・育成が求められている。 ・農業次世代人材投資資金が、資本整備よりも実態は生活費に充てられている現状が多いため、資金交付終了後、農業で生計が維持できるよう、技術面だけでなく、経営面の指導も重要である。 ・農地中間管理事業については、農地の貸し借りを一元化するため、令和5年度から農業委員会に事務移管する。

施策マネジメントシート ～令和4年度の振り返りから令和5年度の取組へ～

<p>[農業委員会事務局] 基本事業No.29</p>	<p>遊休農地を早期発見することで借り手へ情報発信し、遊休農地の耕作に結びついている。 非農地通知を発送し、農地以外の地目変更を促すことにより、正確な農地情報の整備につなげることができた。 遊休農地解消対策事業利用により561aの農地が再生され農地の有効利用が図られた。</p>	<p>サツマイモ基腐病の影響で耕作放棄地となっていた農地が遊休農地となり、遊休農地が昨年より増えている。 農家の高齢化や担い手不足の対策が追いついていない中、今後、農地が余ってくるのが予想され、少ない担い手農家も管理できる農地が限界にきている。「使える農地をさせるうちに使える人へ」を念頭に、農業委員・推進委員の農地利用最適化活動の強化をして、今耕作している農地を維持して、地域農業の存続につなげていく。</p>
---------------------------------	---	--

今後の方向性 今後の方向性の根拠等(他施策との連携、総合戦略との関連、環境変化等を踏まえ記入)

<p>拡大・充実</p>	<p>[農林水産課] 基本事業No.26・27・28</p>	<p>【農業農村整備】 ・基幹的な農道整備による通作条件の改善及び土層改良や区画整理による作物生産性の向上を図る。 ・老朽化した農業水利施設の長寿命化対策を年次的に行い、施設の延命化と保全に繋げる。 ・多面的支払交付金の活用で地域社会の維持・活性化を目指し、今後も地域の資源を地域ぐるみで保全する体制を構築していく。併せて取組効果の向上を図るため、土地改良区との連携強化を目指す。</p> <p>【産地づくり】 ・サツマイモ基腐病の早期収束を目指し、巡回指導による基本防除対策の徹底を柱に、新技術の実証・普及、補助事業等による農家への経営対策、被害ほ場の耕作条件改善事業など効果的な対策を計画的に実施し、生産量の確保・農家の生産意欲の維持を図る。 ・島外出荷を行う生産者の海上輸送費を支援することで、流通条件の改善、農水産物の販売促進及び消費拡大に繋がっていることから、対象品目の拡充等を行い、農家所得の向上を図る。 ・有機農業において、環境にやさしい農業を強みとして、今後、農産物に付加価値をつける販売システムを確立していく必要がある。 ・「種子島産安納いも」の地理的表示(GI)保護制度登録をもとに、さらなるブランド力の向上等に向け生産農家、関係機関一体となった取組を進める。 ・さとうきびの多収性品種である「はるのおうぎ」の普及等により反収向上が図られる中、引き続き収穫体制等の課題を検討し、安定的なさとうきび生産を推進する。 ・サツマイモ基腐病の被害拡大に伴いさとうきびへの転換が進んでいることから、さとうきび苗の安定供給を図る。 ・さとうきびを収穫するハーベスターが老朽化しているため、計画的な機械の更新に向け課題を整理する。 ・農業資材が高騰する中、地域資源としてさとうきびのバガスを活用した堆肥生産など耕畜連携による循環型農業の方向性や仕組みを検討する。 ・園芸産地活性化プランの次期計画に向けた見直しを行う中で、地域の気候風土等にあった農産品及び重点品目の選定と振興策について検討していく。 ・家畜伝染病の予防対策としてワクチン接種に対する畜産農家の意識を高めるため、情報提供や啓発を徹底する。 ・優良血統による繁殖基盤の確立で和牛農家の収益の安定を図るため、あかおぎ牛制度の周知と利用を推進する。 ・畜産新規就農者の家畜導入費及び機械導入等を支援して、安定した経営が行えるように、新規就農者への情報提供を徹底していく。 ・畜産では、予防接種への支援を継続し、優良な種子島産子牛をPRして、増頭を図る。 ・濃厚飼料が高騰する中、飼料代の軽減を図るための代替飼料として期待される飼料用米やWCS用稲(飼料稲)の活用を推進するため周知を行うとともに、稲作農家と畜産農家とのマッチングを支援する。 ・鳥獣被害防止計画の推進に努め、生産性向上による稼げる農業を目指す。 ・農業委員と農地利用最適化推進委員が連携して、農業生産展開の基盤となる優良農地の確保に努める。</p> <p>【多様な担い手】 ・地域計画の策定に向けて、関係機関と地域が一体となり、地域農業を存続させるための取組を行う。 ・援農隊の継続的な体制の在り方及び閑散期の対応について検討する。 ・公社について、計画的な農業機械・施設の更新と併せ、今後の農業を取り巻く環境と運営の見通しを踏まえ関係機関の負担も含め協議する。 ・農業に意欲のある新規就農者に対しては、関係機関・団体が一体となって将来的な地域の担い手となるよう確保・育成に努める。農業次世代人材投資資金の交付対象者については、青年等就農計画の実現に向けてサポートしていく。併せて、市内農業法人等の事業者等の担い手を確保するため、島外からの移住就業者や、島内(市内)在住者の就業者を支援することで、人材確保及び雇用の定着を図る。 ・高齢化等により経営改善計画の更新をしない認定農業者が増えている。新規就農者だけでなく、認定農業者についても市独自の農業機械等の導入支援を検討する。 ・近年大規模な自然災害の発生や気象の変化等、農業者を取り巻く環境は厳しい状況にあることから、農業経営収入保険への加入を支援することで、農業経営の安定化を図る。</p>
--------------	------------------------------------	--

<p>拡大・充実</p>	<p>[農業委員会事務局] 基本事業No.29</p>	<p>「担い手への農地利用の集積と集約化」、「遊休農地の発生防止と解消」、「新規参入の促進」を重点事項として取り組む。 また、毎年、農業委員会、農業委員、農地利用最適化推進委員それぞれに目標を設定して農地利用最適化活動の強化に取り組んでいる。</p>
--------------	---------------------------------	---

②-2 政策部会による振り返り(Check) (6月中に記入)

今後の方向性 政策部会で出された施策に対する意見等(将来像の実現に向けた課題や優先度、市民との協働のあり方など)

<p>拡大・充実</p>	<p>[産業振興部会] 施策担当課の記載する方向性のとおり。</p>
--------------	--